



◆生育状況について

現在の生育は、昨年より5日程度早い状況。気温が上がると、一気に生育が早まるため、前もって作業が間に合うよう進める。

J A管内	ナガノパープル			シャインマスカット		
	発芽	開花	満開	発芽	開花	満開
平年	4 / 24	6 / 1	6 / 8	4 / 26	6 / 7	6 / 11
令和8年	4 / 15			4 / 17		
令和7年	4 / 20	6 / 4	6 / 8	4 / 22	6 / 6	6 / 11
令和6年	4 / 17	5 / 25	6 / 2	4 / 20	6 / 1	6 / 5

◆当面する重点作業について

1. 芽かきの不徹底・誘引作業の遅れている園が散見されますので速やかに作業を行う。
2. 満開までに段切りと摘心が終了するよう、適期に作業を進める。
3. 開花～袋掛けまでの期間は果実感染最重要防除期となるため適期に薬剤散布を実施する。
また開花後、キャップの飛びが悪い場合は灰色かび病やサビ果となるので、花カスを取り除く。
4. 適正着房・適正着粒を心掛け、品質安定を図る。
5. 種なしぶどうでは、摘房・摘粒を遅れないように実施し、2回目ジベレリン処理までに終了させる。
2回目ジベレリン処理終了後、速やかに袋掛けを実施する。
6. 種あり巨峰は、各園地の着粒状況を確認し、実止まり確認後早急に摘房・摘粒の作業を行う。
また、巻きひげや棚下の枝等の切除を行う。
棚下の枝切除量が多い場合は、一度に行うのではなく2～3回に分けて行う。
7. 定期的なかん水を行い、初期肥大を促す。

◆定期的なかん水について

1. 種あり巨峰の場合は、開花前から開花中でのかん水は控える。
2. 種なし品種の場合は、開花前～第1回ジベレリン処理の間は、定期的の実施し土壌水分を一定に保つ。

◆樹体枯死原因について

成木で、枯死してしまう事例が多くなっている。次の内容について注意する。

1. 貯蔵養分不足による凍害
軽い場合は着房制限を行い、樹勢回復に努める。被害が大きい場合は、改植する。
2. 幼木時の着果過多
主枝以外の所への着房・早期に着荷負荷（新梢4本に1本は空枝が基本）をかけていた場合、根とのバランスが悪くなり枯死しやすい。
3. 主枝延長時の伸ばしすぎによる枝の偏平と、幼木若木時の捻じれ。
数年後に枯死になる場合がある。
4. 管理不足
かん水不足・摘心不足・土づくり不徹底・病虫害被害・除草不足など。

◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期：落花直後（房作りした房が80%程度咲き終わった時を落花とみる。）

前回散布から12日後を目安に実施する。

実際散布月日 月 日

品種によって生育が異なるので、生育に合わせて実施する。

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：350ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10ml	—	—
⑨パダンSG水溶剤	1,500倍	66g	14日	スカシバ類
⑨カナメフロアブル	4,000倍	25ml	前日	黒とう病・うどんこ病・灰色かび病
⑨アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	10g	21日	スリップス類
ペンコゼブ水和剤	1,000倍	100g	45日	べと病・晩腐病・白腐病

3. 散布上の留意事項

- 1) スカシバ類対策として、根本・主幹・主枝にたっぷりかける。
- 2) 花冠(花カス)離れの悪い園は特に丁寧な散布を行う。
- 3) 降雨が多い場合は、前回薬剤散布から10日以内に実施する。
- 4) カナメフロアブルに代えてパレード15フロアブル2,000倍（水1000ℓ当たり50ml）で使用してもよい。

◆種なしぶどう1回目「着粒安定・果粒肥大促進・（無種子化）」処理について

1. 散布時期：満開時（果房の先端まで全ての花が咲いた時）から満開3日後まで

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量2ℓ当り

対象品種	農薬名	使用濃度	調合量	備考
種なし巨峰	ジベレリン錠剤	2.5ppm	50mg（2錠）	1つの房に対し、 1回花房浸漬処理
	フルメット液剤	5ppm	10ml（1本）	
ピオーネ	ジベレリン錠剤	12.5ppm	25mg（1錠）	
	フルメット液剤	5ppm	10ml（1本）	
ナガノパープル	ジベレリン錠剤	2.5ppm	50mg（2錠）	
シャインマスカット クイーンルージュ®	ジベレリン錠剤	2.5ppm	50mg（2錠）	
	フルメット液剤	2.5ppm	5ml（0.5本）	

3. 使用上の留意事項

- 1) 種子混入を防ぐため、必ず適期処理をする。
- 2) 効果を上げるため、処理前日までにかん水を行う。また、処理後も行う（湿度をあげる）。
- 3) 着粒過多が心配な場合は、2.5ppmで使用する。ただし若木や結実が不安定な場合は、フルメット液剤5ppm以内（水2ℓ当り10ml）で加用する。
- 4) ナガノパープル等、花冠（キャップ）が残っているとサビになりやすい。処理前にこすり落とす。
- 5) 生育が揃わない場合は2回に分けて処理する。
2回目で処理ができなかった房は、摘房し空枝とする。
- 6) 処理が早いと小粒果（ショットベリー）の増加、穂軸の硬化・湾曲などが発生する。
- 7) 高温時のジベ処理は、効果が劣るので涼しい早朝から行う。
- 8) 処理後は、棚や主枝を揺すり薬液を落とす。
- 9) 降雨による再処理は1回だけ認められている。

◆種無しぶどう軸長と着粒数基準（目安）について

適正な房作りを行うため、軸長調整と摘粒の徹底をする。

1. 品種別基準（第2回目ジベ処理前）※着粒数の多い大房は売れない、食味が劣る。

品種	軸長	段数	粒数
無核巨峰	7 cm	1 4段前後	3 5粒
ピオーネ	7 cm	1 0～1 2段前後	3 0粒前後
ナガノパープル	7 cm	1 3段前後	3 0～3 5粒
シャインマスカット	7 cm	1 3～1 5段前後	3 5粒 若木4 0粒
クイーンルージュ®	7 cm	1 2～1 4段前後	3 5粒 若木4 0粒
クイーンニーナ	7 cm	1 3～1 4段前後	3 0粒

2. 留意事項

- 1) 摘粒以降も1 cm程度伸長する。軸長の調整が重要。大房にしない。
- 2) 段と段の間が空いているものは、段数と粒数を確保する。
- 3) 基本は肩を切り下げで軸長を7 cm以下とし、残す支梗が平らになる所から下を使う。ただし、房尻が貧弱な場合や房尻の粒の間隔が空いている場合は、房尻側を切り上げ、軸長を調整するが、トウモロコシの輪切り状にならないように2回目のジベ処理前（なるべく早いうち）に行う。
- 4) 袋かけ前に、再度粒数の確認をする。

◆種なしぶどう2回目「果粒肥大促進」処理について

1. 散布時期:満開1 0日から1 5日後（平均果粒横径9 mm 時が目安）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量2 0当り

対象品種	農薬名	使用濃度	調合量	備考
種なし巨峰 ピオーネ ナガノパープル シャインマスカット クイーンニーナ クイーンルージュ®	ジベレリン錠剤	2 5 ppm	5 0 mg（2 錠）	1 つの房に対し、1 回花房浸漬処理

3. 使用上の留意事項

- 1) 効果を上げるため、処理前日と処理後にかん水を行う。（湿度をあげる）。
- 2) ナガノパープルで毎年大粒になり裂果が心配される樹では、満開後1 0日頃の処理を目安とする。
- 3) 高温時のジベ処理は、効果が劣るので涼しい早朝から行う。
- 4) 処理後は、棚や主枝を揺すり薬液を落とす。
- 5) 降雨による再処理は1 回だけ認められている。
- 6) 2回目処理は、全品種フルメット液剤は、使用しない。

◆摘房・摘粒講習会開催について

下記日程により講習会を開催致します。都合の良い会場で受講ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
6月11日	木	午前 9:30	更北 真島 小林芳春様園	根津
		午前10:00	川中島 今井 千野しげ子様園	松橋
6月12日	金	午前 9:00	松代 西寺尾 五明公子様園	伊藤
		午前 9:30	篠ノ井 東福寺 中村奨様園 (駐車は東部流通センター南側へ)	外谷
			若穂 綿内 安藤あずさ様園	寺澤
		午前11:00	若穂 綿内牛池 宮澤文広 様園	寺澤
		午後 1:30	篠ノ井 下石川 南澤ひろ江様園	徳武・佐藤
			松代 東条 中村克己様園	伊藤
			若穂 保科 伊藤哲也様園	寺澤
		午後 3:00	篠ノ井 作見 斎藤義夫様園	徳武

◆種あり巨峰について

1. 摘房・摘粒

- 1) 摘房は、結実が確認でき次第実施する。特に弱樹勢樹は早急に行う。
- 2) 結実不良果房を重点に摘房し、1新梢1房にする。仕上げは果粒軟化期までに行う。
- 3) 結実(着房)枝は80～150cm程度のものが望ましい。
- 4) 摘粒は15段・35粒を基本に、穂軸・肩の支梗が見えない円筒形に房形を整える。

2. 新梢かき取りと誘引

- 1) 混み合っている部分を手直しし、副梢は基部から着房位置まで、徒長的で結実の悪い新梢をかき取り、結実良好なものをムラなく残して棚面の明るさを確保する。
- 2) 棚面の明るさは7月下旬に棚下から30%位、空が見える程度が良い。

3. 棚下に下げた枝の処理

- 1) 実止まり決定時(6月下旬)に切り落とす。
- 2) 棚下におろした枝が多い場合は、バランスを崩さないよう一度に切除せず、樹の先端部より段階的に棚下の新梢数を減らし、遅くとも7月初めまでに終了させる。

4. 無核果(単為結果)対策

種あり巨峰の「ジベ巨峰」で出荷となる。「種なし巨峰」としては出荷できない。

- 1) 満開後15日(落花後10日)頃、有核・無核の判定(判断)を行う。
 - ①果房を指で軽くはじいて不受精果等がかなり落ちるようだとよい。
 - ②あまり落果せずぎっしり着粒している場合は無核果と判断する。
発生が多い場合は、早急にジベレリン+フルメット浸漬処理を行う。
- 2) ジベレリン+フルメット処理による果房浸漬処理
 - ①処理時期：満開後10～15日後(有核・無核の判断ができしだい早急に行う)
 - ②処理濃度：ジベレリン25ppm+フルメット5ppm